

筑紫南コミュニティ運営協議会『設立趣意書』

今、社会は著しい変化の時を迎えています。少子高齢化、地域の絆の希薄化、異常気象、経済不況等々、私たちの身の回りには、多くの問題が存在します。私たちは、これらの問題解決のため、行政と一緒に自治活動を推進してきました。

しかし、超高齢化により社会を支える働き盛りの年齢層が減り、また、経済の落ち込みなどによる財政悪化の影響など、今後状況はさらに深刻さを増していくことが予想されます。税収の減少により公共サービスの領域が限られ、住民ニーズに充分応えることが困難な状況が出てくるかもしれません。

私たちは、行政依存の体制ではなく、まちづくりに積極的に参画し、自ら考え、行動し、解決していく住民主体のまちづくりを真剣に考えていかなければならない時期にきています。

筑紫野市は、平成21年3月、各地域のコミュニティセンターを拠点として、自主的・主体的にまちづくりに取り組む「筑紫野市地域コミュニティ基本構想」を策定しました。これを受け、既に山家、御笠、山口などの地域においては、地域住民の手による学習会、準備会が開催され、コミュニティ運営協議会、すなわち、地域の運営について住民自らが協議していく組織が設立され、現在、実動に至っています。

筑紫南地域でも、筑紫地区区長会などにおいて平成23年、24年に説明会、学習会を実施し、平成25年には、関係団体を含めた学習会を4回、その他にも報告会や、小・中学生のまちづくり学習会などを積み重ねてきました。

そして、本年、準備会、報告会、拡大準備会を経て、コミュニティ運営協議会の設立に向けた取り組みを行ってきました。このことは、広報としてコミュニティづくりニュースを発行し、進捗状況をお知らせしてきたとおりです。

会議や学習会を重ねる中で、筑紫南の良さや問題点が浮き彫りとなりました。

筑紫南地域の良さは、緑が多く、空気がきれいで自然に恵まれていること、筑紫神社や長崎街道の原田宿、五郎山古墳などの歴史・文化がたくさんあること、公園や道路が整備され街並みがきれいなこと、水害の心配がなく災害に強いこと、人が暖かく、人とのつながりがあり、地域のまとまりがあること、このほかにも、子どもたちの礼儀がいいことや交通の利便性がよい、生活に便利などがありました。

その反面、自然の破壊、環境へのモラルが低い、災害への備えの懸念、防犯活動、交通安全対策、地域のつながりの希薄化、少子化への懸念、高齢化対策、バス交通の不備、施設の老朽化などの課題が出てきています。

筑紫南地域に住む私たちは、良い面はさらに伸ばし、問題点はしっかり解決し、この筑紫南を誇りに思い、ふるさと意識をしっかりと持って、もっともっと、住みやすい、住んでよかった、住み続けたいまちにするため、安全安心のまちづくり、健康・福祉、教育、生活環境の改善、産業の振興等の事業活動を行政と協働して推進することを目的として、筑紫南コミュニティ運営協議会を設立するものです。

平成26年12月14日

筑紫南コミュニティ運営協議会設立準備会
会 長 中山 雄夫